

週報

Rotary
OITA JOSAI,2720



会長 山本真一
幹事 吉岡尚美

国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツィオ
第 2720 地区ガバナー
藤田 千克由
大分第 4G ガバナー補佐
森永 隆二



よにとのために
手を取りあう

大分城西ロータリークラブ

クラブ スローガン 「つながろう、クラブの未来のために！」

地区スローガン

みんなでつなぐ、育てる、
ロータリーリレーションシップ

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

出席報告	1月7日					例会日	例会場	ホームページ	編集担当
	会員数	出席数	出席率	ゲスト	ビジター				
	27名	19名	760%	2名	0名	水曜日 12:30 ~ 13:30	ホテル日航大分オーシャワー	http://oitajosairotaryclub.com	1月 河野浩二

事務局 〒870-0021 大分市府内町トキハ会館 4階 TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386 E メール oitajosairc@mst.ocn.ne.jp

2025-2026

第 20 回例会

1月 21 日

1615

職業奉仕月間

本日のプログラム

12 : 30	点鐘	
	ロータリーソング「まわせ歯車」	
	ゲスト・ビジターの紹介	山本真一 会長
	会長の時間	山本真一 会長
	出席報告及び幹事報告	吉岡尚美 幹事
	ロータリー情報	R 情報担当委員
	委員会報告	各 委 員 会
	スマイルボックス	会 員 各 自
13:00	年男の卓話	石橋春明 会員
	城西マーケット	原田隆雄 会員

今後の例会予定

1月 28 日	1月 30 日(金)に例会変更
1月 30 日(金)	18:30 ~ トキハ会館 5 階桜の間 大分南 RC と合同親睦夜例会(会費: 7,300 円)
2月 4 日	地区補助金プロジェクトについて
2月 11 日	定款第 7 条第 1 節に基づき例会取りやめ

職業奉仕3分スピーチ

吉岡会員
(今後の予定)
3/11 奈須会員

今週のお祝い(1月 21 日)

在籍記念

衛藤祐介会員 1月 6 日(10 年) · 山本真一会員 1月 6 日(10 年)

配偶者誕生日

神野寛明会員 展子(のぶこ)夫人 1月 24 日

会員誕生日

松田尚美会員 1月 22 日 木下光一会員 1月 23 日

ゲスト・ビジターの紹介(1月 7 日)

ゲスト 高山久信 様 (株式会社 minsora 代表取締役)
エリシモ、シャレン グラシエラさん(米山槻学生)

ビジター なし

スマイルボックス(1月7日)

恒例によりまして、年男年女の方々を紹介いたします。今年も益々のご活躍を祈念いたしまして 1 口ずつお願ひ致します。

松田尚美会員・石橋春明会員・神野寛明会員

幹事報告(1月7日) 大分キャピタル RC 幹事 三重野徹



R財団補助金管理セミナーが 1 月 24 日(土)熊本市で開催されます
PETS(会長エレクト研修セミナー)が 3 月 7 日(土)・8 日(日)人吉市で
開催されます
地区研修・協議会が 4 月 5 日(日)に開催されます。ZOOM で行われる
予定です。

会長の時間(1月7日) 大分キャピタル RC 会長 高野幸人



皆様、明けましておめでとうございます。今年度、当番クラブであります大分キャピタルロータリークラブ会長 高野幸人と申します。ロータリー歴は 9 年、職業分類は土木・舗装です。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

本日は大分市内 10 ロータリークラブ新春合同例会に多くのご参加をいただき、誠にありがとうございます。大勢のロータリアンが集っていて、新年早々、活気に満ちた合同例会となり、重ねて感謝申し上げます。

最初に昨年「大分 OliOli ロータリークラブ」が誕生し、新たに私たちの仲間になりましたので OliOliRC のメンバーをご紹介します。OliOliRC の皆さんにはその場でご起立ください。これから第 4 グループの一員としてよろしくお願ひいたします。

さて、昨年の新春合同例会の時に申しましたが、今年度の藤田ガバナーは会員増強に力を注いでいます。その取り組みの成果でしょうか、現時点で当地区の会員数は昨年の 7 月より 81 人増えています。各クラブ、各人、会員増強に携わった人のセールストークは様々で入会の動機もそれぞれと思います。

そんな中、国際ロータリーが会員を対象としたロータリーの最新調査によると、ロータリークラブへの主な入会理由は次の通りです。 意義ある友情を培う 地域のために奉仕する 職業的なつながりを築く。このように最も多いものが「友情」であり、それに次いで「地域への奉仕」と「職業的なつながり」となっています。これは、ロータリーが、人と人とのつながりを土台とする奉仕のリーダーシップで知られているという事実と一致しています。

しかしながら、世界的にみるとロータリアンの数は減少していて 10 年前は 120 万人いた会員が昨年では 113 万人を切りました。RI は様々な施策を用いていますが、残念ながらどれも功を奏していません。

では、どうしたら良いか？ 答えは簡単で、先程紹介したロータリーに入会する入の動機を満たしてあげる取り組みをすべきと考えます。まずはクラブ内の親睦をはかり、友情が構築できる環境を整える。次に奉仕活動を盛んに行う。そして、会員同士の職業でのつながりを大事にする。要はポールハリスのロータリー創立の原点 = 親睦 Fellowship(仲間

意識、連帯感)を何よりも重んじるという事であります。120 年前に創立したポールハリスの原点と、最近入会してくる人が求めているものが同じということが時を経ても人間の本質は変わらないと証明しています。

今年度も残り半年です。引き続き藤田ガバナーの方針を意識しながら会員の皆様と楽しく、有意義にクラブ活動を進めていけば、あのぞと未来は開かれると思います。

最後になりますが、ロータリー活動、企業活動、何事にも前向きに、この一年取り組みたいと思います。皆様の健康とご発展を心より祈念して会長の時間といたします。

**ガバナー挨拶(1月7日)国際ロータリー第2720地区 2025~2026年度
ガバナー 藤田 千克由(大分中央RC)**



あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

みなさまのお力添えのお陰をもちまして、ガバナー就任から半年が経ちました。

この場をお借りしまして、改めて深く感謝申し上げます。

さて、本日 1月 1日にご逝去されました堀川バストガバナーに、先ほど黙祷を捧げました。

ここで、私が感じてきた堀川バストガバナーの人柄について、少し触れさせていただきたいと思います。

堀川さんがガバナーを務められた際、私はガバナー補佐としてお仕えしたことが縁の始まりでした。

その後、私がガバナーになるまで、そして就任してからも、折に触れて多くのアドバイスをいただきました。

そのアドバイスは、ロータリーの知識と豊かな経験、人間味、そして組織論を踏まえた、まさに的確そのものでした。

もうあの冴えわたる助言を伺えないと思うと、寂しさが募るばかりです。

しかしながら、堀川さんからいただいた数々の言葉を胸に刻み、ガバナーとして残り半年、悔いなく務め上げる覚悟です。

会員増強、RYLA 全国研究会大分大会、地区大会、そして国際大会の成功に向けて、全力で取り組んでまいります。

大分第4グループのみなさまにおかれましては、これまで以上のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

次年度ガバナー補佐挨拶（1月7日）大分第4グループ 2026～2027年度
ガバナー補佐 植山朋代（2720JapanO.K.REC）



皆さま、新年おめでとうございます。

本日は、大分第4グループ新春合同例会のご開催、誠にありがとうございます。次年度第2720地区大分第4グループのガバナー補佐を拝命する予定となりました、2720 Japan O.K.ロータリーEクラブの植山朋代でございます。ローター歴は8年、職業分類は耳鼻咽喉科医師でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

大分第4グループは、地区内でも最も多くのクラブ数と会員数を擁する、たいへん活力あるグループです。それに特色ある10クラブが切磋琢磨しながら活動されており、そのエネルギーと多様性は、地区全体を牽引する大きな力であると日頃から感じています。

ガバナー補佐は、10クラブによる輪番制で務める役職ですが、今回、2720 Japan O.K.ロータリーEクラブが、クラブ発足以来、初めて当番クラブを担当し、ガバナー補佐を輩出することになりました。Eクラブとしては初めての経験であり、身の引き締まる思いとともに、大きな責任を感じております。

ガバナー補佐は決して一人で務める役職ではありません。所属クラブ、そしてグループの皆さまのご理解とご協力があってこそ、その役割を果たすことができます。私自身も、微力ではありますが、10クラブの架け橋となり、ガバナーの思いを丁寧につなぎ、各クラブの声を地区へ届ける存在でありたいと考えております。

そして何より、2720 Japan O.K.ロータリーEクラブの会員全員で、この一年を精いっぱい支え、務めていく覚悟です。この経験を、クラブの成長、そして大分第4グループ全体のさらなる発展につなげていけるよう努めてまいります。

どうか次年度に向けて、皆さまのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、ここにお集まりの皆さんにとって、実り多き一年となりますことを祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

次年度会長代表挨拶（1月7日）2720JapanO.K.REC
2026～2027会長 井田雅貴

皆様、新年明けましておめでとうございます。

次年度会長候補者を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日ご臨席賜りましたガバナー・パストガバナー・ガバナー補佐をはじめ、各クラブ会長、幹事、会員の皆様方に、心より御礼を申し上げます。

さて、私が所属するEクラブは、来年度、創立10周年を迎えます。クラブ創立の折には、スポンサークラブである大分臨海ロータリークラブ・大分キャピタルロータリークラブの皆様から多大なるご指導を賜りました。スポンサークラブの皆様の献身的なご尽力なくして、今日の私たちの姿はなかったと、改めて深謝いたします。

次年度、私たち会長候補者は、ロータリーの伝統ある精神を守りながら、会員増強、社会・国際奉仕、青少年奉仕の充実に全力を尽くしてまいります。

しかしながら、これらの目標達成には、会員お一人おひとりのお力添えが不可欠でございます。次年度も、是非、各クラブの会員の皆様のご尽力を賜りたいと存じます。

大分第4グループの益々のご発展と、皆様方のご健勝をお祈り申し上げますとともに、次年度も変わらぬご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

次年度、どうぞよろしくお願い申し上げます。

次年度ガバナー補佐・会長・幹事 紹介(2026~2027年度)

クラブ名	大分第四グループ	うえやま ともよ
2720 JapanO.K.REC	ガバナー補佐	植山 朋代

クラブ名	会長	幹事	クラブ名	会長	幹事
大 分	さとう のぶひこ	いまがわ なおとし	大分1985	おおき こうきち	さかた ふみあき
	佐藤 信彦	今川 尚俊		大木 孝吉	佐方 文昭
大分東	さとう じゅんや	たかよせ かずひろ	大分城西	いしばし はるあき	そのだ てつし
	佐藤 純也	高寄 和弘		石橋 春明	園田 哲史
大分臨海	いわした まさし	こはし まさゆき	2720 JapanO.K.REC	いだ まさき	まつだ しゅうさく
	岩下 正史	小橋 雅之		井田 雅貴	松田 周作
大分南	いわかわ よしえ	こしょう みちお	大分 Oli Oli	はやし しゅういち	よこお まさみつ
	岩川 義枝	古庄 三千男		林 秀一	横尾 雅光
大分中央	うえむら しんじ	ひめの まさる	大分キャピタル	ぞうし たかふみ	あらき りょう
	植村 伸児	姫野 勝		造士 崇史	荒木 亮



記念講演(1月7日) 高山久信氏 ((株)minsora 代表取締役)



株式会社 **minsora** の高山久信氏が「地域企業の宇宙ビジネス参入に向けて」と題し記念講演を行った。高山氏は、宇宙ビジネスが決して遠い世界の話ではなく、地域経済に密接に関わる新たなフロンティアであることを具体的な事例を交えて解説した。

• 市場規模と国の動向:

宇宙ビジネス市場は2040年代には世界で150兆円規模に成長すると予測されている。日本政府も2030年代初頭までに市場規模を倍増(4兆円→8兆円)させる計画を掲げ、関連予算は近年3000億円から1兆円規模へと急増している。

• 衛星データの利活用:

人工衛星は「宇宙にあるセンサー」であり、そこから得られるデータがビジネスの核となる。

- 地球観測: 農業(宇宙米の育成管理)、防災(土砂崩れ検知)、環境(海の汚染監視)、インフラ管理など、多岐にわたる分野で活用されている。地表面温度データから温泉源を探査する可能性も示唆された。
- 測位衛星「みちびき(QZSS)」: 日本独自の高精度測位システム。現在の4機体制から7機体制へ移行することで、数cm単位での精密な位置情報が無料で提供可能となり、ドローンや自動車の完全自動運転、省力化・効率化に繋がる新サービス(例: ゲートレス料金所)の創出が期待される。

• 大分県内のビジネス事例:

実際に県の補助金等を活用し、複数の宇宙ビジネスが生まれている。

- プレジャーポートの自動離着桟システム(ニュージャパンマリン社)
- ごみ収集車の運行管理(バイオリズム社)
- 高効率な測量サービス(キャンデラプロジェクト社)
- 宇宙空間VR体験(株式会社OEC)

• 今後の展望:

経済産業省は「産業の宇宙化」を推進しており、あらゆる産業が宇宙データを活用して新たな価値を創造する時代が到来している。大分空港のスペースポート計画は、法整備などの課題から目に見える進展は遅れているものの、水面下で着実に進行中であると説明。高山氏は、地域の課題解決を起点に、企業、自治体、大学が連携してビジネスを創出することの重要性を訴え、講演を締めくくった。